

ID	感染症	出典	概要
1	A型肝炎	Virus Genes. 53(2017)15-20	2014年3月、ハンガリーにおいて、輸血関連A型肝炎のアウトブレイク(5症例)が初めて認められた。ネステッドPCR産物のダイレクトシーケンシングにより、検査した全サンプルはA型肝炎ウイルス(HAV)ゲノムのVP1/2A領域が同一であった。近年発見されたHAV配列との比較から、これらの症例を引き起こしたウイルス株は、近年ハンガリー全土にわたっていくつかのA型肝炎アウトブレイクの原因となった株と同一であることが示された。
2	E型肝炎	Euro Surveill. 22(2017)	供血者のE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する疫学情報及び輸血によるHEV感染防止対策について、欧州11カ国における実施状況が示された。アイルランド、英国、オランダ、ドイツ、フランス及びスイスにおいては、全ての供血血液又は一部の供血血液について、HEV RNAスクリーニング検査を実施中、又は実施予定であり、ギリシャ、ポルトガル、イタリア及びスペインでは当局が評価中である。
3	E型肝炎	ProMED-mail 20170522.5055004	英国食品基準庁によると、現在、英国のブタの群れの93%がE型肝炎に感染し、そのうち6%がヒトに感染する可能性があるウイルスを産生している。また、英国の61歳男性が、E型肝炎重症感染症により、腋窩及び横隔膜の神経麻痺を起こした。当該症例の感染源はサラミであると考えられる。
4	E型肝炎	Viruses. 8(2016)	2009年から2012年の間に、フランスのコルシカ島のイノシシ及びイノブタの血清及び肝臓のサンプル並びに30の農場のブタ血清においてE型肝炎の抗体調査が行われた。イノシシで26%、イノブタで43.5%、ブタで88%が陽性であった。
5	インフルエンザ	CDC FLuView. 2017/04/29	2016年~2017年インフルエンザシーズン第17週、米国テキサス州において、新型インフルエンザAウイルスのヒト感染症例1例が報告された。本症例はインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)に感染し、発症する前週に農業イベントでブタに接触したことが報告された。本件は2017年に米国で検出された初めてのH3N2v感染である。
6	インフルエンザ	CDC FLuView. 2017/07/22	2016年~2017年インフルエンザシーズン第29週、米国オハイオ州において、新型インフルエンザAウイルスのヒト感染症例11例が報告された。11例全てがH3N2vに感染しており、発症する前の週に展示会会場でブタに接触していた。ヒト-ヒト感染は確認されていない。同展示会のブタから採取した呼吸器サンプルよりH3N2が特定された。
7	インフルエンザ	CDC FLuView. 2017/07/29	2016年~2017年インフルエンザシーズン第30週、米国オハイオ州において、新型インフルエンザAウイルスのヒト感染症例1例が報告された。本症例はインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)に感染しており、発症する前の週に展示会会場でブタに接触していた。ヒト-ヒト感染は確認されていない。Public health and agriculture officialsはヒトおよびブタにおける感染範囲を調査しているが、その地域における症例増加は報告されていない。
8	インフルエンザ	CDC FLuView. 2017/08/05	2016年~2017年インフルエンザシーズン第31週、米国オハイオ州において、新型インフルエンザAウイルスのヒト感染症例3例が報告された。全例が同じ農作物展示会に参加しており、H3N2vに感染した。ヒト-ヒト感染は確認されていない。Public health and agriculture officialsはヒトおよびブタにおける感染範囲を調査しているが、その地域における症例増加は報告されていない。

ID	感染症	出典	概要
9	インフルエンザ	CDC FLuView. 2017/09/02	2016年～2017年インフルエンザシーズン第35週に、新型インフルエンザAウイルスのヒト感染は米国CDCに報告されなかった。2017年の米国において、計20例の変異型ウイルスが報告されている。18例はH3N2v、2例はH1N2vであった。全ての変異型ウイルス感染例は展示会におけるブタへの接触に関連している。ヒト-ヒト感染は確認されていない。
10	インフルエンザ	ProMED-mail 20170923.5335679	米国メリーランド州において、展示会のブタ5頭におけるH3N2v感染が報告された。さらに、ヒト7例が、その展示会の検査陽性のブタへの密接な接触によりインフルエンザに感染したことが報告された。
11	インフルエンザ	Viruses. 9(2017)	2014年にカナダのアルバータ州、マニトバ州、オンタリオ州、サスカチュワン州で異なる臨床発生から隔離された16個のA型インフルエンザウイルスの包括的なゲノム解析を行った。13個はH3N2ウイルスで、全てクラスターIVに属していた。そのうち8種はIV-C、1種はIV-B、1種はIV-Dのクラスターに属している。残りの3種はクラスターIV内の現在確立されているいずれのグループにも明確に分類できなかった。
12	インフルエンザ	WHO 2017/02/14	イタリアにおいて、ブタインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)のヒト感染症例が報告された。患者はブタ農場でブタとの接触があったことが報告されている。また、スイスにおいて、H1N1のヒト感染症例が報告された。患者はスイス在住の農場労働者であった。
13	インフルエンザ	Influenza and other respiratory viruses. 11(2017)298-303	デンマークのブタにおいて、H1N1由来の遺伝子の一部を含むインフルエンザAウイルスが広がっている。
14	インフルエンザ	https://www.cdc.gov/flu/swineflu/variant-cases-us.htm	2005年12月以降、米国では計414例の変異型インフルエンザウイルス感染が検出された。大多数の症例が発症前の直接又は間接的なブタへの接触を報告している。感染者との濃厚接触による限定的な感染は認められたが、継続したヒト-ヒト感染は確認されていない。
15	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 23(2017)1556-1559	1991～2015年にモロッコ、トーゴ、コートジボワール、ベナン及びケニアで採取されたウシ、ブタ、ヒツジ、ヤギ及びヒトコブラクダの血清サンプルについて、インフルエンザウイルス抗体価を検査した。モロッコのウシ、ベナンのウシ並びにトーゴのウシ、ヒツジ及びヤギのサンプルからインフルエンザD型ウイルス(IDV)抗体が検出された。
16	鳥インフルエンザ	厚生労働省健康局結核感染症課 事務連絡 平成29年3月27日	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)感染のヒト症例は、2017年3月16日までに1,307例がWHOへ報告されており、2013年から現在までで5つのピークを認めている。ウイルス学的所見として、第4派までに分類されたウイルスは全て家禽に対して低病原性を示すウイルスであった。第5波では患者及び生鳥市場の鶏や環境から家禽に対して高病原性を示唆する変異を有したウイルスであることが判明した。しかしながら、H7N9はヒト-ヒト間で感染伝播するような能力は獲得していない。
17	鳥インフルエンザ	https://www.cdc.gov/flu/avianflu/h7n9-virus.htm	2017年8月7日の時点で第5波(2016年9月～)における中国のH7N9感染例759例がWHOより報告された。中国における第1波(2013年3月～)からの累積症例数は1,557例にのぼる。
18	鳥インフルエンザ	CDC/MMWR 25(2017)668-676	米国ニューヨーク市の動物保護施設において、鳥インフルエンザウイルスA(H7N2)に感染した複数のネコの呼吸器分泌物に長期間、密接かつ無防備に曝露していたヒトがH7N2に感染した。本症例は、2003年以降米国で確認された初めてのH7N2のヒト感染であり、感染したネコへの接触を介した当該ウイルスのヒトへの感染の初めてのケースである。

ID	感染症	出典	概要
19	日本脳炎	ProMED-mail 20170811.5242440	香港において、世界初の輸血を介した日本脳炎ウイルス感染が確認された。患者は、2017年7月21日時点において、重篤な状態にある。供血者は香港在住の男性であり、献血時間診では問題はなく、日本脳炎の症状は認められなかった。なお、現在の香港における献血指針では、日本脳炎の検査は必要とされていない。
20	日本脳炎	South China Morning Post.21 July 2017	香港において、世界初の輸血を介した日本脳炎ウイルス感染が確認された。患者は、2017年7月21日時点において、重篤な状態にある。供血者は香港在住の男性であり、献血時間診では問題はなく、日本脳炎の症状は認められなかった。なお、現在の香港における献血指針では、日本脳炎の検査は必要とされていない。
21	日本脳炎	The Government of the Hong Kong Special Administrative Region Press Release-July 21, 2017.	香港において、世界初の輸血を介した日本脳炎ウイルス感染が確認された。患者は、2017年7月21日時点において、重篤な状態にある。供血者は香港在住の男性であり、献血時間診では問題はなく、日本脳炎の症状は認められなかった。なお、現在の香港における献血指針では、日本脳炎の検査は必要とされていない。
22	エボラ出血熱	http://www.sciencemag.org/news/2017/05/could-pigs-be-involved-congos-new-ebola-outbreak	コンゴ民主共和国で進行しているエボラ出血熱のアウトブレイクにブタが関与していないか、科学者らと公衆衛生担当者が調査している。疫学調査により、最初に発病したヒトはイノシシの死骸に接触した猟師であることがわかった。さらに、最近84頭のブタが現在のアウトブレイクの中心地であるNambwa地域の8つの村で死亡した。これらの動物からサンプルが採取され、ブタにおい報告された死亡に関する調査のためのプロトコルが作成されている。
23	ハンタウイルス感染	ProMED-mail 20170406.4952054	米国ワシントン州King郡Issaquahにおいて、女性のハンタウイルス感染疑い1例が報告された。感染が確定された場合には、King郡における本年3例目の確定症例となる。また、2017年、Issaquashにおいて男性1例がハンタウイルス感染により死亡している。過去20年のKing郡におけるハンタウイルス感染は5例である。Issaquahにおける2例は、いずれも自宅、ガレージ等においてシカネズミを介して感染した疑いがある。
24	ハンタウイルス感染	ProMED-mail 20170719.5189996	米国カリフォルニア州におけるハンタウイルス感染の報告。2017年7月、ヨセミテ国立公園から約100マイルの場所にある公園でツアーガイドとして勤務する男性において、ハンタウイルス感染が報告された。公園内の小屋にはシカネズミがいたことが報告されている。2012年以降、少なくとも10例がヨセミテ国立公園訪問後にハンタウイルスに感染している。
25	ハンタウイルス性肺感染	ProMED-mail 20170315.4901561	米国において、2016年11月24日、女性1例がハンタウイルス肺症候群に罹患した。米CDCによる2回のIgGおよびIgM検査でSin Nombreウイルス感染が確認された。シカネズミが複数回侵入した自動車の空気冷却装置を介して感染したものと考えられた。
26	ジカウイルス感染	Science. 356(2017)175-180	in vitroにおいて、デングウイルス(DENV) IgG抗体又はウエストナイルウイルス(WNV) IgG抗体のFc γ 受容体を介したジカウイルス(ZIKV)の感染力の増強が確認された。また、ZIKV感染マウスに、DENV感染者又はWNV感染者の回復期血漿を投与した結果、発熱、ウイルス血症の悪化、脊髄及び精巣におけるZIKVウイルス量の増加並びに死亡率の上昇が確認された。
27	ジカウイルス感染	Emerg Infect Dis. 23(2017)856-857	ブラジルにおいて、妊娠36週にZIKVに感染した女性の母乳からZIKVが検出された。発症後の血液におけるPCR検査でZIKV陽性であったが、出産直前の血液、尿からは検出されず、羊水、臍帯血、胎盤、乳児の尿はZIKV陰性であった。母乳について、Vero細胞においてウイルス培養を行ったところ、細胞変性が観察され、ZIKVの感染性が示唆された。

ID	感染症	出典	概要
28	ジカウイルス感染	Transfusion. 57(2017)762-769	米国において、358,786本の供血血液を対象に、ZIKV RNAスクリーニング検査を実施した結果、23本がZIKV陽性であった。陽性となった供血血液を対象にZIKV RNA及び抗体検査による追加検査を実施した結果、14本で陽性が確認された。ZIKV感染のリスク因子としては供血前の感染流行地域への渡航、性交渉を介した曝露等が考えられた。
29	フラビウイルス感染	Emerg Infect Dis. 23(2017)1289-1299	2011～2012年に西オーストラリア北部で蚊から新規のフラビウイルスが検出され、Fitzroy Riverウイルス (FRV)と命名された。西オーストラリア北部から得られたヒト血清336件中3件でFRV感染が認められた。ノーザンテリトリーで採取したウシ、ウマ、ニワトリ血清でもFRVが検出された。FRV感染者の臨床症状については不明である。
30	フラビウイルス感染	ProMED-mail 20170413.4967711	ドイツの供血者において、急性の無症候性Usutuウイルス (USUV) 感染を示唆する急性USUV感染がはじめて報告された。
31	黄熱	PAHO/WHO Epidemiological Alerts and Updates 2017/05/24	ブラジルでは2016年12月以降、黄熱が大流行しており、2017年5月18日までに758例の黄熱確定症例が報告され、264例の確定症例が死亡した。ブラジル保健省は2017年1月から5月にかけて、バイーア州、エスピリトサント州、ミナスジェライス州、リオデジャネイロ州及びサンパウロ州の1,028市町村における予防接種戦略を強化するため、2,450万回分の黄熱ワクチンを配布した。
32	黄熱	ProMED-mail 20161223.4720671	2016年12月23日、アンゴラは黄熱の流行の終息を宣言した。新規症例は6カ月間発生していない。本アウトブレイクは2015年に首都Luandaのスラム街から始まり、アンゴラ全域、隣国のコンゴ民主共和国へと広がり、合計400例以上が死亡した。
33	黄熱	WHO 2017/01/27	2017年1月24日、ブラジルのInternational Health Regulations National Focal Pointは、黄熱の状況に関する更新情報をWHOに提供した。エスピリトサント州において、1940年以降初めての土着の黄熱の症例が確認された。サンパウロ州では、黄熱のヒトの検査確定例3例が報告され、全例が死亡した。ミナスジェライス州では、2017年1月24日時点で死亡84例を含む404例が報告されている。
34	灰白髄炎	MMWR. 66(2017)359-365	パキスタンにおいて、伝播型ワクチン由来ポリオウイルス2型(cVDPV2)症例が2015年に2例、2016年に1例報告された。
35	灰白髄炎	MMWR. 66(2017)854-858	アフガニスタンにおいて、野生型ポリオウイルス1型(WPV1)症例が2015年に20例、2016年に13例、2017年1月から6月に5例報告された。
36	灰白髄炎	http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2017/14th-ihp-polio/en	2017年8月3日の時点で、2017年のパキスタンにおけWPV1症例は、3例報告された。
37	パルボウイルス感染	Transfusion. 57(2017)1414-1418	本邦において、赤血球輸血を受けた患者が、パルボウイルスB19 (PVB19) 感染症と診断され、献血者の1名から低力価のPVB19 DNA (1.10×10^4 IU/mL) が検出された。当該献血者と患者から検出されたPVB19の遺伝子配列は完全に一致することが確認された。
38	ダニ媒介ウイルス脳炎	The Japanese Times 2017/07/12	北海道において、国内3例目(死亡2例目)となるダニ媒介脳炎症例が確認された。患者は70歳代の男性で、2017年6月中旬に発症し、発熱、意識障害等で入院していたが、2017年7月上旬に死亡した。

ID	感染症	出典	概要
39	パラワクシニア	Virol J. 14(2017)172	2016年5月、山口県の牧場の育成牛の粘膜病変から採取した口腔ぬぐい液サンプルから偽牛痘ウイルス(PCPV)が検出された。これまで日本ではPCPV DNAの検出が1例報告されているのみであり、ウイルスが分離されたのはこれが初めてである。
40	重症熱性血小板減少症候群	Am J Trop Med Hyg. 97(2017)396-402	中国において、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を発症した1集団(6例)の臨床データ及び検査結果を分析し、インタビューによる疫学調査を実施した結果、SFTSウイルスは血液以外の接触を介して無症候性の感染を引き起こす可能性が示唆された。
41	重症熱性血小板減少症候群	厚生労働省健康局結核・感染症課長通知(健感発0724第1号,第2号,第3号)	本邦において、発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・糞便から重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスが検出された事例並びに体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトがSFTSを発症し死亡した事例が確認された。
42	重症熱性血小板減少症候群	毎日新聞 2017/07/24	西日本の女性がネコに咬まれた後、重症熱性血小板減少症(SFTS)を発症し、約10日後に死亡した。女性にはマダニ咬傷の形跡はなかった。動物を介してSFTSがヒトに感染したとみられる事例は初めてである。
43	ラッサ熱	ProMED-mail 20161228.4727447	ナイジェリアにおいて2015～2016年に過去最大のラッサ熱のアウトブレイクが記録され、273症例のうち149例の死亡が報告された。
44	ラッサ熱	ProMED-mail 20170412.4967018	2015年11月～2017年2月のナイジェリアのパウチ州におけるラッサ熱のアウトブレイクにより少なくとも24例が死亡した。
45	乳頭腫ウイルス感染	J Gen Virol. 98(2017)2113-2117	ドイツにおいて野生のイノシシから、新規のイノシシ乳頭腫ウイルス Sus scrofa papillomavirus 2 (SsPV2) が同定された。
46	流行性多発性関節炎	PHE 2017/1	オーストラリアにおけるロスリバーウイルスの報告。New South Walesでは、2016年12月～2017年1月末に501例が報告されており、前年の同期間に報告された96例からの増加が認められた。
47	ウイルス感染	Ann Neurol. 85(2017)105-114	慢性髄膜炎患者の脳脊髄液及び脳生検検体に対し、次世代メタゲノムシーケンシングを実施した結果、Cache Valleyウイルスが特定された。患者はオーストラリア人であり、発症数週間前に米国を旅行していた。Cache Valleyウイルスはこれまでに北米において同定されており、オーストラリア大陸での検出はない。
48	ウイルス感染	Transbound Emerg Dis. 64(2017)311-315	米国の養豚所において、11週齢のブタ約3,000頭において非定型神経疾患の流行が認められた。病理学的検査にて壊死性の灰白脳脊髄炎が確認され、神経組織から遺伝子学的に新型のサベロウイルスが検出された。
49	ウイルス感染	Virology. 493(2016)22-30	非化膿性脳炎のウシ脳組織16検体について、メタゲノム解析の手法を用いてウイルス叢を調査したところ、病原ウイルスの候補として5つの既知のウイルス及び1つの未知のウイルスが検出された。既知のウイルスはパラインフルエンザウイルス5(PIV-5)、BoAstV-CH13/NeuroS1、ウシポリオーマウイルス(BPyV-2 SF)、ヒツジヘルペスウイルス2(OvHV-2)及びウシヘルペスウイルス6(BHP-6)であった。未知のウイルスは、新規ウシβレトロウイルス(BoRV-CH15)であった。

ID	感染症	出典	概要
50	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol. 91(2017) e02390-16	異常グリコフォームプロファイル及びニューロン内プリオンたんぱく質沈着を有する新規の病理学的たんぱく質形態(PrPTSE)を示すコドン129がメチオニン・バリン(MV)ヘテロ接合体であるクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)患者から分離された新規のプリオンたんぱく質(PrPTSEMVAG)の立体配座特性を確認した。このプリオンたんぱく質は、孤発性CJD-MV1型及びMV2型プリオンたんぱく質とは全く異なる生化学的特性を有し、ヒトプリオンたんぱく質遺伝子を導入したトランスジェニックマウスでは伝播せず、ハタネズミにおいて伝播が確認された。
51	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 57(2017)1875-1878	米国赤十字社は、1995年以降、米国において、CJDを発症した供血者からの輸血を受けた受血者について、遡及調査研究を実施してきた。これまでに供血後にCJDを発症した65名の供血者とその受血者826名が登録されているが、CJDの輸血感染症例は認められていない。
52	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2017/05/12	スペインのカンタブリア州において、ウシ1頭における非定型ウシ海綿状脳症(BSE)(L型)が確認された。伝達性海綿状脳症(TSE)サーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡ウシ又は食用にと畜されなかったウシのサンプリング)において、2017年4月28日に迅速診断によりBSE陽性の疑いがあるウシが報告され、確定診断実施後、2017年5月5日に非定型BSE(L型)であることが判明した。
53	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20170513.5033539	スペインのカンタブリア州において、ウシ1頭における非定型BSE(L型)が確認された。TSEサーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡ウシ又は食用にと畜されなかったウシのサンプリング)において、2017年4月28日に迅速診断によりBSE陽性の疑いがあるウシが報告され、確定診断実施後、2017年5月5日に非定型BSE(L型)であることが判明した。
54	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2017/07/18	米国アラバマ州の11歳齢のウシ1頭において、非定型BSE(L型)が確認された。当該ウシは、アラバマ州の家畜市場における定期的サーベイランスにより発見された。米国のウシにおけるBSE症例は全て非定型BSEであり、今回の症例は20年以上のサーベイランスを行ってきた中で、特定された4例目の非定型BSEである。前回の発生は2012年であった。
55	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20170719.5189464	米国アラバマ州の11歳齢のウシ1頭において、非定型BSE(L型)が確認された。当該ウシは、アラバマ州の家畜市場における定期的サーベイランスにより発見された。米国のウシにおけるBSE症例は全て非定型BSEであり、今回の症例は20年以上のサーベイランスを行ってきた中で、特定された4例目の非定型BSEである。前回の発生は2012年であった。
56	サルモネラ症	CDC Centers for Disease Control and Prevention, August 21 2017	2017年に米国において発生したサルモネラ菌ヒト感染の10件のアウトブレイクに関する報告。48の州において961例のヒトにおけるサルモネラ菌感染が確認されている。発症日は2017年1月4日から7月31日の期間で、215例が入院し、1例の死亡が報告されている。これら10件のアウトブレイクは、ヒヨコや仔ガモなどの生きた家禽との接触に関連性が認められている。672例の患者のうち498例が発症の前週に生きた家禽に接触していたことが報告されている。
57	ペスト	WHO 2017/01/09	2016年12月6日、マダガスカルは、国内南東部におけるペストのアウトブレイクの疑いをWHOに通知した。この地区は、マダガスカルでのペスト流行地として知られる地域外であり、1950年以降ペスト症例は報告されていなかった。2016年12月27日、2つの隣接する地区において、死亡26例(致死率42%)を含む症例62例(確定例6例、可能性例5例、疑い例51例)が報告されている。これら2つの地区で実施されたレトロスペクティブな調査により、アウトブレイクは2016年8月中旬に始まっていた可能性があることが示された。
58	コレラ	ProMED-mail 20170622.5123549	内戦状態にあるイエメンにおいてコレラ感染が拡大していることが報告された。要因として、2年に及ぶ内戦状態、衛生的な水、食料の確保が困難になっていることが考えられ、2017年5月8日時点で感染者1,360例、死者25例であったのが、2017年6月21日時点では感染者179,548例、死者1,205例に急増している。

ID	感染症	出典	概要
59	ブルセラ症	CDC Contact Media Relations. 404(2017)639-3286	米国テキサス州 Paradiseにある酪農場の生乳からブルセラ属菌RB51株が検出された。また、テキサス州住民1例におけるブルセラ症に当該酪農場の生乳が関連していることが明らかとなった。CDCは、2017年6月1日から8月7日に当該酪農場の生乳又は生乳製品を摂取した人は抗生物質治療を受けるべきであると勧告をしている。
60	ブルセラ症	Emerg Infect Dis. 23(2017)997-1000	これまで、Brucella neotomae (B. neotomae)は人獣共通感染症を引き起こさないと考えられてきたが、コスタリカにおいて2008年及び2011年に神経性ブルセラ症の男性患者2例の脳脊髄液より、B. neotomaeが分離された。当該2例がB. neotomaeの宿主動物と接触したか否かは不明であるが、B. neotomaeは、人獣共通感染症の原因菌となる可能性がある。
61	ブルセラ症	ProMED-mail 20170321.4912122	米国ニューヨーク州におけるBrucella suisの報告。2016年4月、New York State Department of Agriculture & Marketsは、Brucella suisのヒト症例1例についてNew York State Department of Healthより通知を受けた。患者は、Schoharie郡の農場において、ブタの分娩の補助をしていた。
62	クロストリジウム・ディフィシル感染	日本獣医師会雑誌. 70(2017)516-521	2014年8月、三重県内の養豚場で、新生豚(1週齢以下のブタ)において Clostridium difficile感染症を疑う下痢が発生した。
63	梅毒	ProMED-mail 20161215.4698181	米国アラバマ州において梅毒に感染した新生児の出生数が、2015年の3例から2016年の10例となり、3倍以上に増加した。アラバマ州における原発性及び二次性梅毒の症例数は、2014年の162例から2015年の277例に急増した。米国全体においても、近年梅毒症例が増加している。
64	マイコプラズマ感染	Vector Borne Zoonotic Dis. 17(2017)475-477	ラットに直接接触したことのあるヒトを対象に、Mycoplasma pulmonis (M.pulmonis)感染について、PCR及びELISAにより評価した結果、ヒトにおけるM.pulmonis陽性が確認された。M.pulmonisはげっ歯類に存在する病原体であるが、これまでヒトから分離されたことはなかった。
65	リケッチア症	IASR. 28(2017)123-124	本邦で初めてRickettsia australisによるQueensland tick typhusの輸入症例が同定された。オーストラリアに滞在していた女性が、2016年11月に農作業中にダニに吸血された後、発熱、頭痛、関節痛並びに腋窩リンパ節の腫脹及び疼痛を呈した。日本帰国後、医療機関を受診し、国立感染症研究所の検査により、紅斑熱群リケッチア感染であったことが示された。系統解析の結果、Rickettsia australisと同定された。
66	ヒトアナプラズマ症	Parasit Vectors. 10(2017)264	中国各地から集めたヒツジとヤギの血清サンプルをネステッドPCRで検出した結果、ヒツジとヤギの13.7%から、2015年に中国で同定されたAnaplasma capraが分離された。このアナプラズマ種は中国全土に広がっていることが示された。
67	ライム病	ProMED-mail 20161229.4731028	米国におけるライム病の報告。2016年ニューヨーク州Erie郡において、2016年にライム病の症例が少なくとも186例報告され、2015年の71例から大幅に増加した。また、ペンシルベニア州では2016年12月24日までに、暫定症例12,092例が認められ、米国内最多の報告数であった。米国全体では、暫定症例31,926例が報告されている。
68	オウム病	One Health. 3(2017)29-33	オーストラリアにおいて、2014年11月5日にオウム病の病原体であるChlamydia psittaci (C. psittaci)に感染したウマの分娩に立ち会ったスタッフ、後日胎膜の検査を行った大学職員及び学生のうち5例においてオウム病が認められた。うち3例に対し血清検査が実施され、酵素免疫測定法(EIA)でクラミジア種陽性が確認されたが、C. psittaci感染は確定しなかった。ウマ胎膜はC. psittaci陽性であった。ウマ胎膜のC. psittaci感染とヒトにおけるオウム病症例との関連が新たに示唆された。

ID	感染症	出典	概要
69	細菌感染	Environ Res. 155(2017)359-364	オランダの32の養豚場で採取した、空気中の塵サンプル、居住者及び労働者の便サンプル、ブタ直腸ぬぐい液サンプルについて、CTX-M-1基質拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産生腸内細菌に関して検査をした結果、これまで直接接触によりヒトに感染すると考えられていたこれらの細菌が、空気感染によってヒトに伝染することが示唆された。
70	細菌感染	Transfusion. 57(2017)1122-1131	英国National Health Service Blood and Transplant(NHSBT)は、2011年から血小板製剤の細菌スクリーニング検査プロトコルを導入しており、プロトコル導入後の2011年2月から2015年9月における輸血感染症の報告数は導入前の2006年から2010年と比べて90%減少した。
71	アメリカ・トリパノソーマ症	Merorias do Institut Oswaldo Cruz. 112(2017)437-446	Trypanosoma cruzi(T.cruzi)の性感染の可能性に関する報告。ブラジルにおいて、4家族109例を対象として、T.cruzi感染について調査した。109例のうち21例については、急性シャーガス病と診断されていた。PCRにより、血清については76%(83/109)、精液については82.6%(19/23)のT.cruzi陽性が確認された。陽性精液をマウスの腹腔内または膣内に投与したところ、感染が成立した。T.cruziは性行為を介して感染する可能性が示唆された。
72	マラリア	ProMED-mail 20170131.4803982	ナミビアのオシコト州Omuthiyalにおいて、2017年1月、マラリアの新規症例が3週間で102例報告され、2016年の同時期に記録された25例から増加した。死亡例は報告されていない。症例の増加は、まとまった雨による淀んだ水たまりが原因であった。